

不登校生徒のロールシャッハ法 —治療的介入として—

浦田 英 範^{1),2)}
津 田 彰³⁾

要 約

これはロールシャッハ法を不登校中学生に施行したもののレポートである。彼の口法の分析から以下のことが理解できた。1) 彼の心は揺さぶられやすい。2) 葛藤があり、それが彼の心を混乱させ思考できなくなっている。カウンセラーは彼の心の整理の一助とするために、ロールシャッハ反応のフィードバックを試みた。分析の結果をクライアントに伝えるというのが基本的な方法である。しかし、今回の課程で、彼がロールシャッハ・テストにおいて、僅かな自殺念慮が示されていた。そこで、カウンセラーは彼の気持ちを取り上げ、そのことについてカウンセリングの中で話し合うことができた。

普通、ロールシャッハ法をも含めた心理テストは、クライアントをアセスメントするために最初に行われることが多い。また、カウンセリングの途中で心理テストを施行する場合、カウンセラーではなく他のテスターによって施行されるべきと言われている。

まとめとして、口法はクライアントの心の理解の一助となりうる。口法は単なるテストということではなく、クライアントとのコミュニケーションの契機となる。口法によってカウンセラーはクライアントを理解する事になり、治療的に取り扱うことによって、クライアントは彼らの心の理解に気づくことが可能となる。

キーワード：ロールシャッハ法、治療的介入

はじめに

筆者がスクールカウンセラーとして、学校にはいるようになって7年目を迎えた。学校臨床の世界で、現場の教師達が口にするのは、理由がわからない不登校に出会う、そんな場合どのような対応をしたらよいか、など相談されることがまれではなかった。

学校現場において、彼らは、いじめや友人関係のトラブル、また、教師とのトラブル等、不登校になる原因が明らかにわかるケースは対応のしようがあると

う。しかし、最近、学校現場では、理由がはっきりせず、対応に苦慮するケースに出会うことが多くなっているという。実際、教職員や相談員の先生方にそれらのケースについて質問されることが多いのも事実である。

鍋田(1999)は、従来の分離不安型、優等生の息切れ型あるいは「いい子」の混乱といわれたものの不登校以外に、浮遊タイプ、一見すると元気なタイプなどの不登校や引きこもりの新しい動向を指摘している。

これらのことを反映してか、昨今、学校現場では不

1) 久留米大学大学院心理学研究科
2) オフィスうらた
3) 久留米大学文学部心理学科

登校の理由がわかりにくく、対応もままならない生徒に、教師や心の教室相談員は手も足も出ない状態である。また、児童・生徒との相談に漕ぎつけたとしても不登校に至ったきっかけや理由がわからず、それ以後の対応に苦慮していた、

筆者は、病院臨床や学校臨床でこれらの類似のケースの児童・生徒とのカウンセリングする機会に出会うことがしばしばであった。彼らと会うたびに、筆者は、彼らが混乱して話せない、あるいは、言葉にできない状況にあるのだと考えさせられる事が多かった。

今回、引きこもり傾向になった中学3年生と出会い、ロールシャッハ法（以下口法と略す。）を施行することができた。彼に口法の結果をフィードバックし、それらを筆者と彼との治療的な関わりの中でテーマにできた。口法を心理テストとして、診断や見立ての補助に用いることもさることながら、面接法として用いることの意味を提示してみたい。口法の整理は片口法に準拠した。

II 事例

A君 中学3年生 男子

主 訴；息子が学校に行かない。どう対応したらよいだろうか。

来談動機；担任に勧められて、母親が来談した。本人はいけないという。

現 病 歴；X年5月の体育祭練習の頃から不登校気味になる。母親としてこれと言った原因は思いつかない。はじめは、体育祭の練習で疲れているんだろうと思っ様子を見ていた。あまりにも行かなくなるので、息子の友人や担任に頼んで誘いに来てもらっていた。5月20日体育祭が終わって、全く行かなくなった。担任が登校刺激をしたが、1回目は行ったがそれ以降行かなくなった。担任も今無理して行かせることが良いかどうか疑問であるし、専門家に相談してみてもどうかと言われた。そのため母は相談に来た。母は、息子のことを「この子は教室では明るく振る舞う子で内気なところもあった。母として気になるのは、1年生の時、背が高いからと言うことで、バスケのレギュラーになった。本人はバスケは好きだったが、レギュラーになったことで負担があったようで、部活をやめると言い出した。そのときは仲の良い友達がいたのでどうにか乗り越えた。この子の前にも先輩で同様なことがあり、その子も不登校になった。顧問の対応が問題かも？何か部活で傷つくようなことがあったのではと思う。」と彼が不登校になった理由を母が述べた。

生 育 歴；身体的発達の遅れや問題はないという。小学校2年の時父親の仕事の都合で転校。元来おとなしい子で自己表現は下手な方だろう。友達を作ることには下手、友達が誘ってくれるのを待つタイプ。

家 族 歴；父（46歳）、母（44歳）、姉（高専2年）、本人、妹（小4）の5人家族。姉は下宿し週末に帰ってくる。姉は本人の遊び相手でもあり相談相手。

III 経過

第1期 彼との出会いと口法を受けるまで（#1～#8）

彼との出会いは、最初は、彼が自宅に引きこもり、対応に困った担任や保護者とのコンサルテーションから始まった。彼はカウンセリング室にも来られない状況であった。そのため、彼が筆者に会うということになれば家庭訪問をしても構わないことを母親から告げてもらう。彼が筆者と会ってもよいということとなり、引きこもり始めて2ヶ月後に彼の自宅で会った。（カウンセリングの回数を#1の用に表記する。）

治療構造は週1回、50分とし、家庭訪問しカウンセリングを行った。（本人の具合で時間を短縮することもある。）

#1

第1回目の家庭訪問では、彼は緊張し、こちらからの質問も自分の言葉で話せず、苦悶様の表情であった。また、やや混乱しているようで、こちらからの問いかけや質問にも、返事できなかつたり、反応が遅かつたりした。筆者としては、始めて会うので彼の負担にならない用に配慮した。その中でわかったのは、①学校には行かなくや行けないけど行けない事。②不登校になった当初の2週間ぐらひは、死にたい気持ちがあったことがこちらに理解できた。彼とは週に1回家庭訪問をし、カウンセリングを行うことを約束した。

#2～#8

彼は相変わらずあまりしゃべろうとしない。いや、こちらが質問してもどう返答してよいかわからない様子であった。筆者の方から「わからないならわからないといっていんだよ。」と伝え、彼は頷いた。#3では、こちらの質問に単語程度に答えることができた。#4では日頃の生活を理解できた。犬の散歩に行っていること。本屋にたまにいらしていることが、こちらの問いかけでわかった。#5では、初めて筆者に自ら質問してきた。「先生は何で心理学を勉強したんですか。」と筆者に興味を示したり、心理学にも興味があることが語られた。筆者は、口数が少なく、自分の気持ちを言語化できないので、彼の精神力動を理解

したいと考えていた。彼もまた心理学に興味があること、自分の心を見つめてみたい気持ちが存在した。そこで、彼に筆者から口法の施行を提案した。彼は自分の心を理解する一助として口法を受けることを快諾し

た。その理由として、自分の心を理解したいということであった。#9に口法を施行することにした。

施行後、彼はこの結果を聞きたいと言っていた。#9口法を施行した。記録は以下に示す。

口法の反応の記録

Card No. & Resp. No.	Free Asssocation	Inquiry	Scoring
I ①A	7" カラス 何かな～ カラスがいっぱい集まっている感じ。 もう見えません。 35"	D) ここが羽っぽくて、向き合っている感じがする。 (らしさ) いや、あんまりぱーっとみた感じ。	①W FM±A
II ①A	5" 人がしゃがみ込んで手を合せている。 う～ん ちょっと分からない。 35"	D) この黒い所、形的に。 詳しく) これが膝でこれが手で、これが腕、足。 ♂♀) 男っぽい ?) 体つきが。	①W M±H
III ①A	えー う～ん 本当微妙。 ちょっと分からないです。 Rej 50"	→ここに魚みたいな。 詳しく) ここだけ。尾びれと背びれ。	①D F±A
IV ①A ②	5" 木 人を下から見た感じ。 23"	D) このぱーっとのびている。 大きい木という感じに見えます。 らしさ) このでこぼことか。 D) これが足で頭があって、これが手みたいな。 ♂♀) 男っぽい。 ?) 足が太いから。	①W F-+PI ②W FK±H

Card No. & Resp. No.	Free Association	Inquiry	Scoring
III ①A	3" 蝶 30"	どんな所が蝶に) コウモリかもしれな い。 どんな所が蝶に) 羽と触角が。 蝶とコウモリと両方に) どっちも違う。 別々なもの。 →コウモリ D) 羽の形, 体の小さい所 体?) ここ	①W F±A P ②W F±A P'
VI ①A	5" 葉っぱ 15"	D) この形, まわりの らしさ) 中にすじがある。	①W F-+Pl c
VII ①A	わからない。 Rej 15"	→微妙。これが女の人の顔に見えない ことはない。 D) 鼻と口 ♀) 顔の形がそれっぽい。 ?) 人の形に見えそうで見えないから。	①D F±Hd
VIII ①A	3" 花 花の向こうに山みたいなのが…。 そういう感じかな。 28"	D) このピンク色と花びらを広げた感 じ。 らしさ) 色 D) ここが遠くの景色の山。 詳しく) かたちとかが何となく, 薄い 緑っぽいのが遠くっぽい。	①dr CF-+Pif ②dr FK-+Lds CF c
IX	ちょっとわからない。 Rej 25"	?) あんまり…	

Card No. & Resp. No.	Free Association	Inquiry	Scoring
X ①A	3" 花 花がいっぱいある。 ない。 15"	D) 色です。これが葉っぱ。 詳しく) これの花, 中に丸があって, 花っぽい。この青も花。花っぽい。まあそんなところ	①dr CF-+Plf

Liked Card · X · きれいだから花がいっぱいあるから。

Disliked Card · VII · 薄い, 白い部分があるから。雑に作ってある感じ

Self Card · I · なんか感じで

Summary Scoring

R=12 Rej=1 TT=3'01" RT(Av)=25.9" R₁T(Av.)=4.4" R₁T(Av.N.C)=5"

R₁T(Av.C.C)= 3.7 Most Delayed Card & Time= I & 7" Most Disliked Card= VII

W : D=7 : 2 W%=58.3% Dd%=25% S%=0 W : M=7 : 1 M : ΣC=1 : 2.5 FM+m : Fc+c+C'=0 : 1

VII+IX+X/R=25% FC : CF+C=0 : 2.5 FC+CF+C : Fc+c+C'=2.5 : 1 M ; FM=1 : 1

F%/ΣF%=50%/83.3% F+%/ΣF+%=50%/60% R+%=50% H%=25% A%=33.3%

At%=0% P(%)=2(16.7%) Content Range=5 Determinant Range=5

このテストは分析が必要だから次回の面接の時に結果を返すことを筆者が告げた。しかし、この時、筆者の中に不安がよぎっていた。口法の分析をきちんとしないと、その結果を告げることに抵抗はあったものの、傾向として僅かながら、彼の心の奥底に自殺念慮が存在していた。筆者は迷ったあげく、他の事はきちんと口法の分析をしてフィードバックするが、気になることがあるので、1点だけ伝えていいかと彼に話した。彼は頷いた。筆者は、例外的に話をするけど、来週まで話さないのは心配で仕方がない。今日の口法から、僅かではあるが、あなたの心の中に以前確認したような、死にたい気持ちがあるみたいです。口法からはっきりとそのことが伺えました。あなたはこのことについてどうお考えになりますか。彼は「…そこまでわかるんですか。…まだ少しあります。」とぼつりぼつり話し始めた。これを契機に彼は、口数は少なかったが、自分の気持ちを語り始めた。

#10では#9で介入した自殺念慮以外の口法の結果を話し合った。口法の結果は以下の通りである。

①外界の刺激に動揺しやすい。②注意集中力がなく、考えがまとまらない。③内容はわからないが、心に引っかかることがあって戸惑っているようだ。④人とつき合うのが苦手で引っ込み思案なところがある。以上の4点を中心に彼に伝えた。このことについて、一緒に考えていこうとも伝えた。

第2期 気持ちが外界に向き始める時期 (#11~#32)

結果を聞いた感想を彼が述べた。「何でわかるんですか。不思議だなあ。」「僕が読んでわかる心理学の本てありますか。」「この間、引っ込み思案で言われたけど、いつも僕は友達の話の聞き役だった。」と口法の結果から刺激を受けたのか少しずつ自分の事を話すようになった。この時期から、以前から欲しかった携帯を購入した。メールや携帯で仲のよかった友人と交流し始めた。#28では、久しぶりに友人が遊びに来たと

報告するが、冴えない表情だったので、尋ねてみると「もうみんな受験のために塾に行ったり、高校の体験入学の話が出た。」「なんか話しについて行けない感じがして。」と漸く友人や現実が目が向き始めた矢先に少し混乱し始めた。筆者が取り残された感じがしたのかなと問うと、彼は、静かに頷いた。筆者は、事実出遅れている感じはあるし、その現実を見てショックを受けるのもよく理解できる。引っ込み思案の貴方が、貴方なりに友人や外に目を向けることができるようになっただけでも、ものすごい一歩だと思っていますが、どうでしょうね。彼は「分かっているけど、付いていけない自分がいたから。」と困惑した表情で言葉を返した。#30では「友人がA高校を受けるらしい、自分も本当はそこに行けたらと以前は考えていた。」今は「どこもあまり考えていない」そう「でもいかんといかんなかとも思う。」迷い始めていた。#32では「迷っているが受験はせんといかんなかとも思っているし、お母さんも言うから」筆者は口法の4点を提示し、受験をするなら引っ込み思案の部分を少しどうかしないときついのではないかなと伝えると、「かもしれないし、受験は本当のところ迷っている。」

第3期 受験体制～終結（#33～#42）

受験に対して消極的ながらも彼は動き出した。口法の4点と自殺念慮の件を話題にしながら、これからのことを二人で考える。担任も進路のための面談を彼が来やすい用に設定した。それには制服を着て行くことができた。しかし、それ以外は外出することはなかった。引っ込み思案な事をどうするか？高校に行った集団の中にはいるが、人とつき合うのが苦手な部分をどうするのか。これらのことが話題となった。人になれる事や人混みの中にはいることなど筆者が提案し、彼もその必要性は感じていたがなかなか行動に表れなかった。筆者は貴方のペースでやろうと伝えると本人も納得した。次第に彼は高校受験に対して意欲的になった。「先生、先生みたいになるにはどうしたらいいですか。」と自分の将来について考えるようになった。#35では「先生が言われましたけど、心理学も人を援助するし、精神科の医者もカウンセリングをする人がいる。いろいろ考えてみたい。」と本人なりに具体的に考え出した。高校は、私立高校と公立高校に担任と話し合っただけで決めた。そのための勉強も少し始めたという。考えることや集中することはこのあたりから改善されたようである。#38では私立高校を受験してきた。同じ中学の子は一人ぐらいしかいなく緊張したけど受けてきた。筆者としてはやれていることを大切にしてくださいと

伝えた。

受験に関してはきちんと受けに行っていた。しかし、中学校には来られずじまいであった。結局、卒業式もでることはなかった。

幸いにも公立高校は合格し、本人は「行けるかどうか心配だけど、とにかくやってみる。」という。また「医者になろうと思う。なれるかどうか分からないけど。」筆者は、がんばってみることも大切だよと伝える。

最後のカウンセリング#42では、照れながら「先生、立ち直るきっかけを有り難うございました。」「自信はないけど自分なりにがんばってみます。」と。筆者は貴方が貴方なりにやっていくことだし、自分のペースでやって欲しい。それと貴方の心の癖も見ていって下さいね、といってカウンセリングを終了した。

考 察

口法は、治療導入や精神医学的な診断の補助として用いられることが多い。つまり、アセスメント的要素をしめている。今回、引きこもって2ヶ月後の不登校生徒と出会った。当初は、母は、体育祭の疲れからこうなったと思ったが、いっこうに彼が学校に行く気配がない。また、彼は、学校に行けなくなったことで混乱し、自殺念慮を不登校になった2週間は抱いていた。それから逃れるかのように、1日寝ていることが多かった。この時期、保護者はどうしたら学校へ行けるようになるのか。また、担任を動かして登校刺激をした。母は本人に学校に何か原因があるのかと尋ねると、これといった理由も見あたらない。

担任は本人に何かあったのかと尋ねても返事がない。どうしたかと問うても、本人もわからないとしか答えなかった。担任は、この時困り果てて「わからんと言うのが今の答えかもしれんね。」と答えている。

まさしくこの状況は、理由がわからないあるいは理由が見あたらない不登校である。こちらが推察できる事は、本人が混乱し、自分の思考がまとまらず、つらい状況にいて、彼の心の中が混沌としているという事である。

数回、家庭訪問しカウンセリングをしていくと、彼は、筆者に興味を示し始めた。最初は、こちらの質問にYes, Noの意思表示しかできなかった。筆者としては彼の混沌とした世界にどう対応するか苦慮していた。自分の気持ちが言語化できないようであった。筆者の介入で混沌とした世界から、少し心の整理ができて始めていた。しかし、彼が苦しんでいるのは理解でき

たが、心の動きが推測することでしか対応ができなかった。そこで、筆者は、彼も興味を抱いた口法を施行することにした。ここで気をつけなければならないのは、興味を示したから直ぐ口法を行うことの危険性である。今回、彼は言葉にならないぐらい混沌とした心の中にいた。そのような時に、口法を施行すると下手に混乱させるだけである。その辺りを見極め、意味のない心の動きが意味を持つようになった時、つまり、こちらの質問に Yes, No だけでも意思表示ができた時、心の表現としての口法を用い、彼の心の世界を理解した。その理解に基づいて、カウンセリングを行った。口法から得られた資料をキーワードにしてカウンセリングを進めていった。彼は微かな自殺念慮を抱いていた。口法をフィードバックする時、データーをきちんと分析し解釈したものをフィードバックするのである。しかし、今回、自殺念慮存在したためそのことだけを伝えた。次のカウンセリングのときに分析したものを伝えた。

これらを契機に彼の心が少しづつではあるがまとまり始めた。口法をクライアント理解だけに施行するのではなく、治療介入として利用するのも可能ではなかろうか。

フィードバックの時の留意点

口法の結果を伝える時の留意点は、クライアントの治療目標や課程を十二分に理解しておく必要がある。

口法を施行する際、口法に限らず臨床心理査定全般について結果をクライアントに伝えることは最低限必要である。

この事例を発表することに快く応じてくれたクライアントさんに心から感謝いたします。

引用文献

- ブルック・H 著 鑑 幹八郎・一丸藤太郎訳 1978
心理療法を学ぶ —インテンシブ・サイコセラピー
の基本原則 誠信書房 (Bruch.H LEARNING
PSYCHOTHERAPY; Rationale and Ground
Rules 1974 Harvard University Press)
- 土居 健郎著 1988 精神分析 講談社学術文庫
- 片口 安文著 1987 改訂 新心理診断法 金子書房
- 神田橋 條治著 1984 精神科診断面接のコツ 岩崎
学術出版社
- 前田 重治著 1976 心理面接の技術 慶応通信
- 前田 重治著 1986 カウンセリング入門 有斐閣
- 松木 邦裕著 1996 対象関係論を学ぶ —クライ
ン派精神分析入門— 岩崎学術出版社
- 鍋田 恭孝編 1999 こころの科学 87 特別企画
学校不適応とひきこもり 日本評論社
- 西園 昌久著 1985 精神分析を語る 岩崎学術出版
社

Rorschach Technique for non-school attendance
—Therapeutic Intervention—

HIDENORI URATA (*KURUME UNIVERSITY, OFFICE URATA*)

AKIRA TSUDA (*KURUME UNIVERSITY*)

Summary

This paper is a report on a Rorschach Technique applied to a non-attendant junior high school student. The analysis of his psychodynamics showed that 1) his mind was easily agitated, and 2) the conflict addled his mind and dulled his thought. The counselor tried feedback of Rorschach response in order to contribute toward his clear psyche. Telling the client the result of the analysis is the basic way. However, in the present process, he showed a little suicide idea on the Rorschach test. That was why the counselor picked up his suicide idea and could discuss its feeling with him first. Usually, psychological tests including Rorschach test are applied at the beginning to assess the client. Moreover, it is said that a psychological test should be proceeded by the other tester, not the counselor, when it is applied during the counseling process. In conclusion, Rorschach technique can be a contributory factor of the counseling in order that a client's psyche becomes clearer as the fog disperse. Rorschach Technique is not only a test, but the result can be a clue to a communication with the client. By the Rorschach Technique, the counselor will understand the client; and moreover, by discussing the result therapeutically, the client can find the truth of his/her psyche.

Key words: rorschach technique therapeutic intervention